



# 校長室だより

平成23年度 7月号

彩が丘小学校長 竹川智子

## 生きる力をつけるために「彩が丘っ子4カ条」

### 彩が丘っ子4カ条

- 1 「聞く」はすべての基本
- 2 時間を守りてきぱき行動
- 3 そうじ時間 無言で集中  
細かい気配り
- 4 姿勢よくする

今年度、子どもに規範性を育み、実践力のある児童を育成するために、「彩が丘っ子4カ条」を作成しました。どのクラスにも教室に掲げてあります。先日、保幼小連携協議会が本校で行われました。近隣の保育園・幼稚園より保育士・幼稚園教諭の方が参加してくださいました。1年生の授業参観後、その後協議を行いました。一番の協議の

中心が「聞く」力をつけること。共通しておっしゃったことがお話を聞ける子に育てる上で「読み聞かせ」が大変効果があるということでした。

## 聞くという読書 児童文学者松居直氏(読書推進運動協議会機関誌より)

「本は言葉の世界です。言葉の世界へ入りこむもっとも大切な体験は、語られたり声に出して読まれたりする言葉を、耳で聞いて言葉の中に入りこむことにつきます。聞く力が身につけていて、はじめて読むという技術を駆使して読書ができます。読書力を育て養うには、まず乳児期に親が子どもを抱いて語りかけ、唄いかけること、つまり言葉で子どもを抱いて育てることです。ついで幼児期には、子どもを膝に座らせて、昔話を語ってやり、絵本を読んでやることです。さらに小学校中学年ぐらいまで、家庭で本を読んでやることです。特に父親が読んでやるのが、今はとても大切です。”読み聞かせ“といわれている行為の最大の意味は、親と子が共に居ること、言葉で子どもを包んで、言葉の楽しみを共にすることにあります。親とは語る人です。それと同時に、保育や学校という集団生活の場で、子どもたちに本を読んでやるのが大切です。友達といっしょに言葉を共有し、喜びを共にする体験は、生きる力です。小学生だけでなく、中学生にも、教室で本をもっと読んでやってほしいものです。聞く力が教育の土台です。」「聞く」はすべての基本。大切にしたいと思います。